

Yomiuri Weeklyに紹介されました

Yomiuri Weekly 2004年12月12日号に紹介記事が掲載されました。

エーエルティー株式会社

<http://www.alt.co.jp>

Info@alt.co.jp

Challenge 2004

「イーエルティイー」

アジアを視野に入れた戦略と少数精鋭エンジニアの技術力で「測れないものを測る」

中国の台頭、韓国の躍進、日本の回復……。今、東アジアを中心に経済社会が躍動感に溢れている。中でもハイテク分野においては、ポータレスな取り組みがその企業を成長させるカギとなる時代といっても過言ではない。

今後日本製造業が世界と対等に渡り合う為には海外戦略に力を入れ、確かな技術力が必要となってくる。その技術は92年創業のレーザー

应用、特にレーザーシステムに挑戦するビジネスを展開するイーエルティイー株式会社（資本金二〇〇万円、高野裕社長）に息づく。

地球上に存在する光の中でもレーザーは人類が作り出した数少ない光の一つ。自然光と比べて光を遠くに飛ばすことができ、小さいスポットを作るのに適している。また光の位相が揃っている特徴があ

り、レーザーをスキャンすることで多くの情報量が得られるのだ。

「イーエルティイー」は、主にレーザー製品を主として、海外からの引き合いもある。中でも韓国サムスン電子との繋がりは深く、レーザープリンタの検査システムでは16システムの実績がある。

「韓国は日本と地理的にも近い上に国民も勉強熱心で温かく、ビジネスには申し分ない。広くアジアでビジネスを展開させるのも我々にとっては重要」と語る高野社長。

高野社長のようなグローバルな視野が韓国と日本の経済関係をより近いものにしていく。

レーザープリンタも高速、カラー、ローエンドと、開発機種は多く、基礎開発から関わっている機種もある。

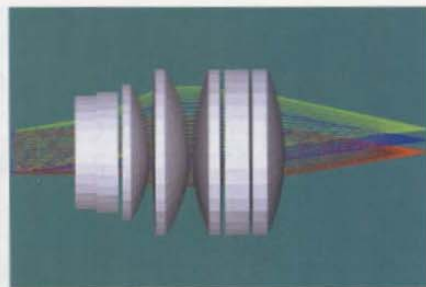
「新製品出荷に際しては、必ず検査機をチェックをしなければなりません。製品それぞれにスペック（規格）があるなかで無理を可能にしなければならぬのです」

自社開発の「高速走査位置計測システム」は毎分5万回転（3km/秒）するポリゴンスキャナで面傾斜を連続して計測するもの。肉眼では決して捉えることのできない一万分の一度の傾きさえも測定する精巧さを誇っている。

今年12月には ISO9001取得

また新開発の「ダイナミックビーム径計測システム」は、走査しているレーザービームのビーム径を計測する。高回転での空気抵抗や高出力モータの発熱によるビーム径への影響を測定でき、これによりLSU完成状態でのビーム径計測が可能になった。

「昨今導入された三次元計測で応用分野のアプリケーションも広がりをみせる。例えば鉄道分野では、新潟中越地震でダメージを受けたトンネルの検査に同社のスキャンシステムが使用されている。一方、歯科医療の分野では、歯のつめものにチタンを採用する動きが進んでいるが、その型を決定する上で同社のスキャン技術が採用される案件もある。」



レーザーシステム用、光路図

「測れないものを測る」という言葉は技術開発の側面のみならず、時間やコストの削減という側面もあります。それらの側面を総合的にクリアすることが大切」（高野社長）

同社は今年12月にはISO9001の取得が確定しており、会社としても情報の共有化、社内一人ひとりの開発力を集約させるための書面づくりが進行している。

このことにより自社内で開発から製造までを一貫して手掛ける体制もあいまって、納期の短縮、スピードアップにもつながり、なおかつ製造・開発コストの削減の実現を可能にするわけだ。イーエルティイーの名がより鮮明にレーザーの世界に刻まれていく。（有）

本社 東京都練馬区豊玉南一丁目100
TEL/011-5946-7336
http://ait.co.jp



同社の扱う豊富な製品ラインナップ



高野裕 社長